

きょうの紙面



海の治安守れ 横浜水上署が巡回

7

横浜みなと新聞

神奈川の海の治安を守る横浜水上署。大さん橋国際客船ターミナル前を拠点に、人命救助などの対応に日夜尽力している。



核廃絶願ひ、被災地支援、憲法論議へ積極
SMAP、年末

総合読者文化スポーツ 2・4・6・9~13

Kanagawa in Rio

「4年間の成果出せず」

セーリング女子・土居20位

2度目の五輪も願った場所には届かなかった。第10レースを終えたセーリング女子レーザールーアル級の土居愛実は20位に沈み、上位10艇で争う最終レースに進めなかった。「悔しい。悔しいを通り越しているけど表現が見つからない。4年間積み上げたものが出せなかった」。日焼けした顔はゆがんでいた。

出遅れが響いた。第1レースで21位。「挽回しなきゃ」という気持ちが強くなっていた。風が読めていなかったし、冷静な

判断ができなかった。グロリアマリナー沖の海は時折強く吹く、いたずらな風で大きく揺れた。最終日の第9、10レースも15、21位と最後まで立て直せなかった。前回のロンドンでは31位。レース直後に満足している自分がいた。だが、上位10艇だけが出られる最後のメダルレースを観覧席で見た時、当時18歳だった少女の顔つきは変わった。

女子レーザールーアル級に出場した土居愛実。20位にとどまり、最終レースに進めなかった



女子レーザールーアル級に出場した土居愛実。20位にとどまり、最終レースに進めなかった

リオデジャネイロ(ゲッティイ共同)

昔から風を知る江の島(藤沢市)に移る。「絶対に金メダルを取る気持ちで4年間(練習に)臨みたい」。その思いがある限り、リオの海を笑って振り返られる日はきつとくる。(リオデジャネイロ 須藤 望夢)

た。この地、この海で勝ち抜くためだった。2014年の韓国・仁川アジア大会で2位、15年11月の世界選手権では8位に入った。世界との距離は縮まっているように思えた。期待という風になつてしまったかな」とかばつ。「4年後、また同じことが起きたらと思うたら怖くなった」。土居はそう明かし、序盤の低迷から競技から身を引くことも考えたという。それでも「これ以上、下がることはない」と聞き直った13日の第7、第8レースではそれぞれ2、1位に食い込んだ。全てが無に帰したわけではない。26歳となる夏。舞台は昔から風を知る江の島(藤沢市)に移る。「絶対に金メダルを取る気持ちで4年間(練習に)臨みたい」。その思いがある限り、リオの海を笑って振り返られる日はきつとくる。(リオデジャネイロ 須藤 望夢)

食品が前回の2012年ロンドン五輪覇者アンディ・マリイ(英国)に敗れ、ラファエル・ナダル(スペイン)との3位決定戦に回

の女子が準々決勝でオーストリアを破り、ベスト4入りした。男子は準々決勝に進んだ。最終日の競泳は男子400

0メートルリレーで日本は5位となり、4大会連続のメダルを逃した。米国の9連覇し、マイケル・フェルプスは史上最多の金メダ

バスケットボール女子の日本は1次リーグ最終戦で前回銀のフランスを破り、5連覇中の米国の準々決勝が決まった。トランポリ

川アジア大会で2位、15年11月の世界選手権では8位に入った。世界との距離は縮まっているように思えた。期待という風になつてしまったかな」とかばつ。「4年後、また同じことが起きたらと思うたら怖くなった」。土居はそう明かし、序盤の低迷から競技から身を引くことも考えたという。それでも「これ以上、下がることはない」と聞き直った13日の第7、第8レースではそれぞれ2、1位に食い込んだ。全てが無に帰したわけではない。26歳となる夏。舞台は昔から風を知る江の島(藤沢市)に移る。「絶対に金メダルを取る気持ちで4年間(練習に)臨みたい」。その思いがある限り、リオの海を笑って振り返られる日はきつとくる。(リオデジャネイロ 須藤 望夢)

Rio 2016

4年後もっと高く

恩師ら「成長の証し」

若きセーラーにとってリオの風は優しくなかった。山手学院高出身でリオデジャネイロ五輪セーリング女子レーザーラジアル級に出場した土居愛実選手(22)は慶大では20位でレースを終えた。それでも、2020年東京五輪の競技会場は地元藤沢市江の島。幼き頃、手ほどきをした人たちは次回こそ主役に躍り出ることを願ってやまない。

(リオデジャネイロ＝須藤 望夢)

セーリング女子・土居選手

上位10艇が進む最終レースへの進出はならなかったが、第7、第8レースでそ

Kanagawa
in
Rio

れぞれ2、1位。土居選手が通っていた横浜ジュニアヨットクラブ代表の中川二朗さん(14)から責める言葉はもちろん出ない。「順位を落としたり」初日は心配したけど、よく頑張った。ロンドンのときより力をつけている証し」とたたえる。小学2年のときから、五

輪にそろって出場している男子470級代表の兄、一斗選手(24)を追って洋上を遊び場としてきた。「きっかけは不純だった」と土居選手がはにかむ理由を同クラブのヘッドコーチ丸田都朗さん(69)は知っている。「せつかくお兄ちゃんもいるからと声を掛けたんだ



総合20位に終わり、うなだれるセーリング女子レーザーラジアル級の土居愛実選手 =13日、リオデジャネイロ



土居選手の奮闘をねぎらい、4年後に期待を膨らませる中川さん(右)と丸田さん =藤沢市

けど、なかなか踏ん切りがつかなくて。じゃあジュニア20本あげるから一緒にやろう」と

最初は沖へ出るのを怖がった小学生の一人だった。だが、練習を重ねていくうちに土居選手は周りと違ってきた。「中学校に入ってからいからかな。他の選手と比べて自分はどうなのかとか自発的に考えてやるようになった」と丸田さん。

中川さんも「自分の立場がよく分かっている子。クラブで学校の宿題をやっている

「最初は五輪にセーリングがあることを知らなかった」という少女は今、同クラブの後輩たちの目標だ。中川さんは勝負の厳しさを教えてくれた背中に一層の期待を込める。

「セーリングは経験も必要な競技。これからますます伸びるし、東京五輪では好成績を残してくれると信じている」